

1 不整脈とはどのようなものですか？

心臓はある一定のリズムで拍動を繰り返しており、そのため正常では脈は一定（整脈）となります。これは、心臓の右心房にある洞結節というところから一定のペースで出る電気刺激が、刺激伝導系と呼ばれる特殊な経路を通して心臓全体に伝わることで、心臓の拍動が司られているからです。この電気刺激の流れのどこかに異常が起こることで不整脈が生じます。不整脈の種類には多くのものがありますが、頻度の高いものは期外収縮と心房細動の2つです。

検査のはなし vol.13

専門医が解説する 病気の検査…5

「不整脈（期外収縮・心房細動）」

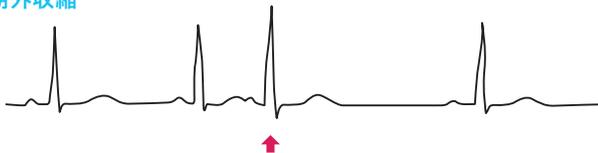
日本臨床検査専門医会
信岡 祐彦



2 期外収縮とはどのような不整脈ですか？

洞結節以外の別の部位から少し早いタイミングで電気刺激が発生し、そのため通常のリズムより早期に心臓が収縮し、脈が不整となる状態です。期外収縮は健常人にも認められ、年齢とともにしだいに増加します。不整脈の中でもっともよく見られるもので、「心臓がドキンとする」、「心臓が一瞬止まる（つまりく）ようになる」という症状がみられることもありますが、ほとんどは無症状で治療の必要はありません。ただし基礎に心疾患がある場合や、健常者であっても動悸の訴えが生活に支障を来すような場合は、治療の対象となることがあります。

期外収縮



心房細動



3 心房細動とはどのような不整脈ですか？

心房細動は、心房の各部分部分から1分間に600～800回という非常に高い頻度で電気刺激が発生し、心房がまったく無秩序にばらばらに収縮する状態で、心房は小刻みに震えている状態（細動）となります。心房で発生した高頻度、無秩序な電気刺激の一部が不規則に心室に伝わって心室を収縮させるので、心室の収縮も規則的なリズムがなくなり、脈拍はまったく不規則なものとなります。このため心房細動は絶対性不整脈とも呼ばれます。

心房細動では心臓の拍動がばらばらとなるので、心臓から1回に拍出される血液の量も1拍ごとに異なります。このため血圧も1拍ごとに異なり、急性、発作性に起こる心房細動では不快な胸部症状を伴う動悸として自覚されます。また心房が小刻みに震えている状態のため、血液がよどみやすく、血栓をつくりやすい状態となります。心房細動は加齢によって生じるものもありますが、心臓弁膜症や虚血性心疾患などいろいろな心臓疾患でみられるほか、甲状腺疾患が原因となることもあります。心房細動がみられたら、その原因となる疾患の有無を検索する必要があります。